

環境に配慮した取り組み

～再生可能エネルギーを利用しています～

NEXCO 中日本は、「環境・持続可能社会への貢献」の取り組みとして、再生可能エネルギーである、太陽光発電、水力発電、バイオディーゼル燃料、バイオマス燃料の利用を進めています。

(1)太陽光発電

太陽光発電は、1995年度に足柄サービスエリアのお手洗いなどで初めて利用してから、2010年度までに11箇所のサービスエリアなどで導入しました。

3月に営業を開始した名二環では、国内の高速道路では最大になる約2,000kWの発電規模の太陽光発電を導入し、半地下式の道路構造であるため昼間必要になる照明の電力を100%を賄っています。

当社管内の2010年度末の太陽光発電規模は全体で約2,500kWになりました。



名二環 掘割上部に設置された太陽光発電パネル

(2)水力発電

東海北陸道の飛驒トンネルでは、トンネルから発生する湧水を活用して、約50kW規模の水力発電を2010年12月から行い、トンネル照明の電力として利用しています。

(3)バイオディーゼル燃料

サービスエリアなどで使用したてんぷら油の廃油をリサイクルした、バイオディーゼル燃料を2006年度から利用しています。2010年度は道路を管理する標識車両や路面清掃車両など17台で、軽油に換算して約3万リットルのバイオディーゼル燃料を利用しました。



(4) バイオマス燃料

高速道路から発生する刈り草や間伐材などの植物発生材を活用した、バイオマス燃料の利用や技術開発を進めています。

① ペレット(小さく固めた固形燃料)

間伐材などからペレットを製造して、冬期の間サービスエリアでペレットストーブの燃料として利用しています。2010年度までに8箇所のサービスエリアにペレットストーブを導入しました。



ペレット



ペレットストーブ

刈り草などからペレット燃料を製造する技術開発を企業との共同研究で行い、新東名リーディングプロジェクトで、このペレット燃料利用の実証実験を行いました。現在、実用化の検討を進めています。

② 気体燃料

刈り草などからバイオマス気体燃料を製造して発電する技術開発を、ヤンマー(株)と共同研究しています。6月頃から名神高速道路多賀サービスエリア(下り)で基礎実験を開始します。発電規模は25kWで、実験期間中に得られた電力は、サービスエリアの一部で利用する試みも予定しています。



多賀 SA での実験用プラント

当社は今後も引き続き、環境・持続可能社会への貢献に取り組むと共に、環境技術開発を推進します。